



長橋一弘議員の質問

ヘルス・トラディショナル ツアーに関して

Q 新型コロナウイルス感染症の終息後、無償で三条に誘客してもらえませんか？

A 「新型コロナウイルスの世界的流行の解消期に合わせ、三条市が指示したタスキングでインフルエンサーを活用した情報発信業務を実施する」と覚書にあるが、どうなっているのか。

Q 令和4年3月10日に滝沢市長と島田社長とで取り交わされたとする覚書は、いつ、どこで、誰が、どのような形で調印をしたのか。

A 係争中のため、答弁できない。

「さくら湯らでい」に関して

Q 株主名簿と経営計画書の情報公開請求をしたが、株主名簿は非公開、経営計画書は出し渋りだった。なぜなのか。その理由を市民に平易に説明してほしい。

A 株主名簿については、条例の規定にのっとり判断した。経営計画書については、市内での調整に時間がかかったもの。



路線バスで通学する小学生

気候変動と温暖化について

Q 近い将来の心配事ではなく、今すぐに対応しなければならぬことと思う。市内の温室効果ガス排出量の削減目標について伺う。

A 2030年度で2013年度比46%削減を目標としている。



Q 経営計画書に書いてある2025年までに「八十里越のランドマーク化」を図るための設備投資とは、具体的にどのようなものか。

A 下田郷開発と連携しながら事業を進めていく。

Q 支配人が代わったとあるが、退社なのか。退社であれば、その理由は。慰留したが、最終的には本人の思いもあり、辞めることとなった。



小林誠議員の質問

合併以降の人口減少について

Q 合併から18年が経過。人口は大きく減少し、合併時に比べ9.6%減少した。地域別に見ると、大島地区が14%増加したほかは8~29%の減少。特に旧三条市や旧栄町が8~10%の減少なのに、旧下田村は長沢地区がマイナス20%、鹿峠地区がマイナス25%、森町地区がマイナス29%と激減している。合併時、「速やかな一体化と格差是正」の促進とうたっていたが、現状をどう見るのか。今後のまちづくりをどう進めていくのか。

A 国道289号全線開通を見据え、三条市をただの通過点としない取り組みの強化など、一極集中ではない地



坂井良永議員の質問

農業施策について

Q 生乳価格の低下、飼料と光熱費の高騰、雄子牛価格の暴落等で大変厳しい酪農家の経営を支援すべきではないか。

A 限られた財源で必要な施策を実施している。追加支援は考えていない。

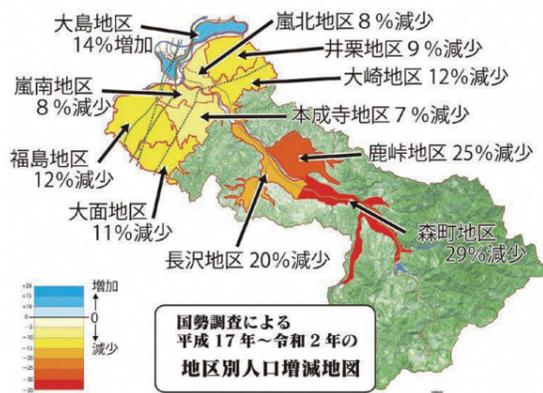


酪農家に支援を

Q 食料・農業・農村基本法が来年の通常国会で改正される。国の最優先事項は食料の安全保障であり、自給率向上を義務付けるべきと思うがどうか。

A 国政の議論を注視し、地域農業の維持発展に向けた取り組みを着実

域の特性に応じた各地域の魅力向上に取り組み。人口減少の流れを直ちに止めることは難しいが、暮らしの場を守り、地域を維持し、まちの魅力を保全することが何より大切だと考える。



公共交通について

Q 人口減少の中で公共交通の維持は重要な問題だ。特に路線バスについてどう取り組んでいくのか。

A 基本は事業者の経営判断だが、地域住民の生活に直結するバス路線の確保は重要と認識している。既に実施している不採算路線への運行費補助に加え、利用促進のための周知活動など、地域公共交通体系の維持強化に努める。

ゼロゼロ融資の借り換えに支援を

Q 7月から本格的にゼロゼロ融資の返済が始まった。県の借り換え融資の利子と国の借り換え保証の保証料を支援すべきではないか。

A 県の伴走支援型資金は、事業計画と資金繰りの見通しを示した経営行動計画の策定、実行が利用条件であり、現時点で支援は考えていない。

自転車用ヘルメット購入に補助を

Q 4月から自転車の乗車時に全員ヘルメット着用が努力義務化された。購入費用に補助すべきではないか。

A 一定程度の品質を備えたものが低額で販売されている。現時点で補助は考えていない。



内山信一議員の質問

曲淵二丁目ポンプ場の増強について

Q 地域住民が安心して過ごせるよう、より安全を確保するための対応に速やかに着手してほしいと切に願うものである。この曲淵二丁目ポンプ場の機能強化に対する市の見解を伺う。

A 当該ポンプ場は、内水を堤内地側にあるピット（一時貯水槽）に吐き出す構造になっている。今回、そのピットの高さのかさ上げなど、地域の人からより安心してもらえるような方策を検討するよう、建設課に指示をした。



曲淵二丁目ポンプ場のピット

三条市のスクールバス運行等の改善について

Q スクールバスは無料なのに、他の交通機関を利用する場合は自己負担が発生し、不公平感があつたことな



酒井健議員の質問

八十里越開通に向けた観光施設整備

Q 県境部観光施設の進捗を伺う。
A 4号と5号、7号と8号のトンネル間盛り土部に道路施設の配置計画が示され、それらを活用した立ち寄りスポットを検討している。



県境部の工事説明会

県中央基幹病院開院に向けた環境整備

Q 国道403号、市道大島萩島線改築の進捗を伺う。
A 国道403号三条北バイパスは、県道塚野目代官島線まで令和5年度末開通と聞いている。市道大島萩島線は、関係機関との協議と並行して設計中である。